

第2回第2期 湧別町まち・ひと・しごと創生総合戦略策定委員会 会議録

開催日時	令和2年10月15日（木曜日） 午後1時30分・開会 午後3時13分・閉会
開催場所	上湧別コミュニティセンター2階大会議室
出席委員等	委員：北村委員長、野田副委員長、森・高桑・寺嶋 ・村田・本村・毛利・西川・出口各委員 各部長：石塚総務課長、星健康子ども課長、安藤農政課長
欠席委員等	山口・藤井・宍戸・中川各委員
事務局職員	企画財政課：佐藤課長、西海谷主幹、奥田主任
議題	<ol style="list-style-type: none"> 1. 開会 2. 委員長挨拶 3. 確認事項 <ol style="list-style-type: none"> (1) 第1回第2期湧別町まち・ひと・しごと創生総合戦略策定委員会会議録の確認について 4. 議題 <ol style="list-style-type: none"> (1) 湧別町まち・ひと・しごと創生総合戦略検証シート（案）の修正について (2) 湧別町まち・ひと・しごと創生総合戦略検証シート（案）における策定委員会による所見について (3) 湧別町人口ビジョン（素案）について (4) 第2期湧別町まち・ひと・しごと創生総合戦略（素案）について 5. その他 <ol style="list-style-type: none"> (1) 次回の会議日程について 6. 閉会
会議の公開	公開
傍聴人の数	1名
提出資料	<ol style="list-style-type: none"> (1) 第2回第2期 湧別町まち・ひと・しごと創生総合戦略策定委員会議案 (2) 第1回会議録 (3) 検証シート（案）の修正

	<p>(4) 湧別町人口ビジョン（素案、改訂版）</p> <p>(5) 第2期湧別町まち・ひと・しごと創生総合戦略（素案）</p> <p>(6) 湧別町人口ビジョン（平成28年3月策定）</p> <p>(7) 湧別町まち・ひと・しごと創生総合戦略（平成28年3月策定、令和2年3月改訂）</p>
そ の 他	

1. 開 会

佐藤課長) 第2回第2期湧別町まち・ひと・しごと創生総合戦略策定委員会を開催します。本日は過半数の10名の委員が出席しておりますので、会議が成立していることをご報告いたします。

2. 委員長挨拶

北村委員長) お忙しい中お集りいただきありがとうございます。第1回策定委員会では委員の皆様から様々なご意見を頂きました。本会議でも皆様の忌憚のないご意見を頂きながら会議を進め、よりよい湧別町になるような方向性を決めていきたいと思っておりますので、よろしく願い申し上げます。

佐藤課長) 本日の会議は概ね2時間を目途に終了させて頂きたいと考えておりますが、協議内容が多いことから本日1日では予定議題を終了できない場合も考えられます。そのため、残りの議題については、次回の会議に持ち越しさせて頂きたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

3. 確認事項

(1) 第1回第2期湧別町まち・ひと・しごと創生総合戦略策定委員会会議録の確認について

※会議録の修正については無し

(2) 前回会議の質疑についての回答

西海谷主幹) 村田委員からの質疑について回答します。就労人口のうち町外からの就労人口は平成27年国勢調査によると、町内の就労人口総数5,025人の内、町外からの就労人口は805人となっており、率に換算しますと約16.0%となっております。

4. 議 題

(1) 湧別町まち・ひと・しごと創生総合戦略検証シート(案)の修正について
※議案に基づき事務局から説明 質疑無し

(2) 湧別町まち・ひと・しごと創生総合戦略検証シート(案)における策定委員会による所見について

※議案に基づき事務局から説明 質疑無し

(3) 湧別町人口ビジョン(素案)について

※議案に基づき事務局から説明

出口委員) 11ページの地域ブロック別人口移動状況についてですが、どのように算出しているのか教えて頂きたい。

- 西海谷主幹) 転入と転出の合計値となっています。したがって、合計値がマイナスとなっているのは、転入より転出が多いことが原因です。
- 出口委員) この表では北見市への転出超過が多いが、なぜ北見市への転出超過が一番多いのか教えて頂きたい。
- 西海谷主幹) この表は人口移動状況を表したもので、北見市が一番多い原因までは不明ですが、仕事や大学進学などが要因の一つではないかと思われまます。
- 出口委員) 現状の数値を分析し人口減少の理由をある程度推測することは、計画の目標値や施策を検討する上で重要な事だと思ひます。
- 西川委員) 人口移動の状況ですが、転入転出の理由までは把握していないということですが、やはり計画を策定する上では重要な情報だと思ひます。
- 出口委員) 一次産業関係で外国人就労者が約150人いるということですが、2、3年前から徐々に増えており、町の人口が減少する中、外国人就労者数が全体の人口に占める割合は増えている状態です。これを考慮した上で計画に明示しなければ人口の推定値に大きなギャップが出る恐れがあると思ひます。
- 高桑委員) 人口の増減する要因が分からなければ対策が立てられないと思ひます。
- 寺嶋委員) 9月に東京から2人転入生が来ました。湧別町の子育て施策など町に魅力を感じ湧別町を転入先として選んでくれたと聞いています。転入転出の理由もやはり計画策定の上で重要と事だと思ひます。
- 村田委員) 転出届出の際に理由を調査できる仕組みはありますか。
- 西海谷主幹) 特にありません。
- 村田委員) 公式的なデータがなければ、ある程度転出する理由については推測するしかないと思ひます。例えば遠軽町や北見市への転出の理由は就職や進学など、その地域別に理由はある程度推測できると思ひます。私たちの職種で考えると転勤による移動が理由となりますが、このように大きな分けとして進学、就職又は近隣市町村ではあれば町の魅力などによる理由が推測され、転出先との位置的な関係も考慮することで、それに対する方策なども見えてくることもあり、11ページの表を活用するのであればこのような分析の仕方もあると思ひます。
- 森委員) 委員の皆様と同じで、対策を立てるためには転出超過となっている要因を分析しなければならないと思ひます。
- 西川委員) 農業や漁業の研修生として外国人が就労していますが、福祉分野

でも人材が不足しており、そのため外国人就労者により人材を確保する計画があります。外国人就労者専用の住宅を整備し定住させることで人口対策にも繋がると思います。このような外国人就労者の定住に係る施策を計画に盛り込み内容を充実させてはどうでしょうか。

西海谷主幹) 定住促進のための住宅建設補助や民間賃貸住宅建設補助はありますが、福祉分野についての定住に係る施策は現在のところ素案にはありません。

佐藤課長) この計画の中には記載されてはいませんが、町としては今年度より、町の福祉施設の人材を確保するため、東川町にある日本人学校の留学生を対象とした奨学金事業を実施しています。

本村委員) 社会増減の転出の中で若年層の移動の理由が最も知りたい情報ですが、地元から転出した若い方が湧別町にどれくらいの割合で戻ってきているのか、また U ターンしない理由などがわかれば解決策が見えてくると思います。

毛利委員) 委員の皆様と同じく転出の理由を分析することが重要だとは思いますが、中湧別でも東京から転入された方がおり、湧別町の職員が親切でその人柄に魅力を感じ転入したと聞いています。やはりこのように人と人の繋がりが重要であり、計画を策定する上でもそれを意識していかなければならないと思います。

村田委員) 12 ページの人口移動状況のグラフで、20 歳から 24 歳の純移動数が 25 年前より大きく下がっていますが、この差の要因を教えてください。

西海谷主幹) 町全体の人口減がその要因の一つと考えられます。

村田委員) この年齢層の純移動数は 1985 年から 2015 年まではプラスとなっていますが、2010 年以降はプラスマイナス 0 となっています。要因としては人口の減ということですが、移動の増減としての数値ですので町全体の人口減以外の他の要因があり、この部分はそのキーワードになっているのではないかと思ひ質問させていただきました。

(休憩)

北村委員長) 続きまして「第 2 章将来の人口の推計」から「第 3 章人口の将来展望」について皆様からのご意見をお伺いしたいと思います。

本村委員) 15 ページの人口ピラミッドですが、北海道や国と比較した場合、湧別町の特徴的な所があれば教えてください。

- 西海谷主幹) 本町の特徴としては、高齢者65歳以上の人口が全体の約36%前後あり、北海道や国より高齢者の比率が高い状況となっております。
- 高桑委員) 人口構成ですが、現在の一次産業を維持する上で働く人が何人いなければならないのかを考えた場合、農協や漁組が現在の雇用を確保し産業を維持することができれば、この将来の人口ピラミッドの推計値のような人口減少とはならないと思います。
- 寺嶋委員) 21ページで長期的な見通しの中で施策の成果を評価する指標として人口を用いていますが、他に評価の基準となるようなものがあれば教えて頂きたい。
- 西海谷主幹) まず基本としては人口を一つの目標としており、それ以外では各部会で設定した施策ごとのKPIの目標達成率を評価基準とすることだと思えます。
- 寺嶋委員) この計画が成功したかどうかを判断する場合、やはり人口が最大の指標であり、このグラフでいけば黄色線の町独自推計どおりとなれば成功となると考えます。
- 佐藤課長) 評価の一番の指標は人口ビジョンであり、人口が町独自推計の通りとなることが戦略の成果になると考えます。会議の冒頭で第1期計画のKPIの達成率について、達成率が90%を超えているのは全体の8割と説明しておりますが、人口は目標値を下回る結果となりました。委員が言われたとおり、この計画の目的は目標人口を達成することであり、達成するための各分野の施策が重要な課題となります。
- 寺嶋委員) 指標としては人口以外にも、幸福度や満足度など、人口が少なくても豊かな生活が営める町のような、別な観点での指標があってもいいと思います。
- 佐藤課長) 町の計画としては総合計画が最上位にあり、その中でも人口維持のための様々な施策が盛り込まれており、また各年齢層や団体などにアンケートを通じて満足度などを調査し、その結果を基に各種事業を総合的に判断した上で策定しています。総合戦略はこの総合計画と整合性をとった計画となっており、同時に作成した人口ビジョンを基に各種施策を実施することから、指標としては人口が一番のウエイトを占めることとなります。
- 野田副委員長) 農協の関係では、各町にあった農協の事業所が広域化により統合され無くなりましたが、今後も他の事業の広域化が進めば人口減少の要因の一つとなると思います。酪農業では大規模化が進み人材と

して外国人実習生を雇う事業主が増え、また飼料センターや哺育育成センターなどの分業化も進んでおり、さらにバイオマス発電事業の計画も進められています。これらの事業は雇用の創出や地域の活性化にも繋がるものだと思います。一方、搾乳ロボなどの機械化により労働環境も変化しておりますが、やはり一次産業の生産を維持するためには人口の減少に歯止めをかける必要があります。

森委員) 漁業関係では作業の機械化がなかなか進んでおらず、町内外から人手を確保しなければならない状態です。ホタテ船では12隻で乗組員80人のうち半分が町外から来ており、漁組では採用する職員の7割が町外からの採用となっています。関東や都市部には北海道の自然や災害の少ないことに魅力を感じているが、募集窓口がどこか分からない人もいます。来年から他の漁組と協力しマイナビのサポートを受けながら東京で説明会を開く予定です。町も町内事業所を引き連れて東京で説明会をやるのも一つの案だと思います。

北村委員長) 本日、委員の皆様から頂きましたご意見を事務局でまとめさせていただきますので、よろしく願いいたします。

佐藤課長) 本日は人口ビジョンの素案についてご意見を頂きました。人口ビジョンそのものについては、推計に基づいて作成したものですのでご理解いただきたいと思います。ただ、人口の推移に対する分析ができるような資料、特に転入転出の内容や年齢などの特徴的なものを調査し、次回会議までに作成したいと思いますのでご理解願います。

北村委員長) 本日は議題の(1)から(2)までの審議が終了しましたので、次回は(3)からの審議となります。

5. その他

(1) 次回の会議日程について

西海谷主幹) 次回の会議日程は11月中旬ごろを予定とし、10月下旬に日程調整します。

出口委員) この総合戦略策定委員会としての意見のまとめはいつまでに行うのか教えて頂きたい。また、会議の内容についても事務局からの資料を基に意見を出すのではなく、各委員でこの町の人口減少という問題をどうやって解決するのかをもっと議論する必要があると思います。

西海谷主幹) 事務局では、この策定委員会の答申は年内と考えており、委員会の開催はあと2回を予定しています。

6. 閉 会

北村委員長) ありがとうございます。次の会議の日程につきましては、令和2年11月中に開催することとし、その日程については皆様に都合の良い日をまた文章等でお知らせし決定次第、皆様にご案内するということです。それでは、長時間に渡りまして皆様の貴重なご意見、誠にありがとうございます。

佐藤課長) 長時間に渡りましてご審議頂きありがとうございました。以上を持ちまして、第2回目の湧別町まち・ひと・しごと創生総合戦略策定委員会を閉めたいと思います。
本日はありがとうございました。

午後3時13分終了